スカイAカップ

2021プロボウリングレディース新人戦

6月19・20日／ボウリング王国スポルト八景店

17歳のトップ合格新人・中島瑞葵がデビュー戦V！

新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、9都府県を対象に出されていた緊急事態宣言が開催日まで延長され、残念ながら無観客開催となった今年のレディース新人戦。プロの部には50期から53期までの計23名がエントリーし、予選8G・準決勝4Gを経て上位8名が1Gマッチの決勝トーナメントで覇を競った。今年度のプロテストに合格したばかりで、今大会が公式戦デビューとなる53期生は4名そろってベスト8に勝ち残り、トップ合格の17歳・中島瑞葵（小嶺シティボウル）が見事その頂点に立った。（主催：（公社）日本プロボウリング協会／特別協賛：㈱スカイA）

▲▶「優勝すれば新人戦最年少と聞いていたので、優勝したいと思っていた。緊張はしていたが、ワクワクもあった」と中島。新人離れした冷静沈着なアプローチさばきで見事デビュー戦勝利を飾った（優勝ボール：ＡＢＳナノデス・アキュライズエイト）

1次免除で臨んだ5月のプロテストで、次位の堀井春花にアベレージで10ピン近い差をつける断トツの成績でトップ合格を果たした実力は本物だった。デビュー戦でいきなり決めたVゴール。ちなみに、17歳2カ月での優勝は新人戦の最年少記録でもある。

今大会、予選3位→準決勝2位と順位を上げて決勝トーナメントに進出した中島は、1回戦で同期の幸木百合菜と対戦。昨年の新人戦アマの部優勝決定戦で敗れた相手にプロデビューの舞台でリベンジを果たすと、準決勝ではタイトルホルダー（18年グリコセブンティーンアイス杯覇者）の霜出佳奈（50期）に4フレの1ミス（ビッグ5オープン）で中盤までリードを許しながら鮮やかに逆転勝ちした。

前土佐澪（51期）、キム・ソヒョン（52期）を連破して一方のブロックを勝ち上がってきた越智真南（51期）に挑んだ優勝決定戦は、準決勝とは逆に中盤までのリードを7フレの1ミス（⑥⑦⑩スプリットオープン）で逆転される展開に。越智が6点リードして10フレ勝負にもつれ込んだ戦いは、先投げの越智が1投目8本カウント（スペア）。中島は落ち着いてストライクを決め、ダブれば再逆転のチャンスをたぐり寄せた。

▲ラストチャンスの新人戦も昨年同様に準決勝敗退の霜出。「50期で残ったのが自分一人だったので、優勝したい思いは強かったのですが…若さと勢いに負けました（苦笑）」

運命の一投を前に、中島のボールがリターンラックに戻ってこないというアクシデントが生じて思わぬ間が空いたが、ここでも中島は慌てず騒がず。放たれたボールは1投目と同じ軌道を描き、見事10本のピンを弾き飛ばした。

以下は中島の試合後コメントだ。

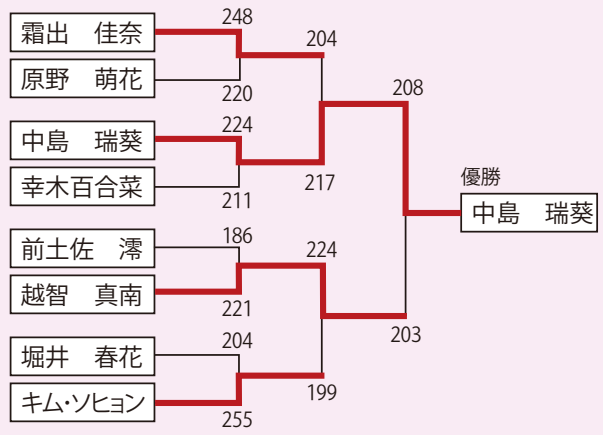
「準決勝と決勝のスプリットは自分の失投だと分かっていたので、同じレーンでの次の投球は落ち着いて投げることができました」「（決勝の10フレ2投目は）ストライクを出せば優勝できると分かって投げました。レーンの変化に対するアジャストもけっこう冷静にできていたので、自分の投球ができればストライクは狙えるという状況でした」「同期4人が全員決勝に残って、心強いというより負けたくないという緊張がありました。優勝してみんなに『おめでとう』と言ってもらえてうれしかったです」

年相応のあどけない笑顔の裏に勝負師の貌（かお）を隠し持つ“現役女子高生プロ”。自身のミスにも動じない冷静なアプローチさばき（ゲーム運び）は新人らしからぬもの。“超新星登場！”と大々的に謳っても間違いはないだろう。

▲千載一遇のVチャンスを5ピン差で逃した越智。「練習してきた成果は出せたと思うが…もっと早くレーンの変化に対処できるようにならないと」と、悔しさをにじませつつ反省点を口にした

▲1回戦では8名中ベストスコアの255で堀井春花を下したキムだが、準決勝は一転して199と失速。「練習不足を痛感した。明日からまたがんばって練習します」

●決勝トーナメント



●優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
越智　真南	⑧		9		⑥ 2				9	8
	20	40	60	78	86	116	145	165	183	203
中島　瑞葵			9	9			⑦ –		9	9
	29	49	68	88	115	132	139	159	179	208

アマの部優勝は15歳の両手投げ！

優勝決定戦

森 恵美 185:177 佐藤悠里

22選手が参加したアマの部は、プロの部同様に予選8G・準決勝6Gを経て1位・森恵美（伊賀にんにんボウル／14G2955）、2位・佐藤悠里（スポルト八景店／同2948）両選手の間で優勝が争われた。結果は森選手が全日本ナショナルチーム女子の現キャプテンである佐藤選手に競り勝つ大金星。森選手はプロを目指している両手投げの15歳（高1）で、歴戦のキャリアを誇る佐藤選手を“若さの勢い”で押し切った。

▲▶初体験の決勝進出に「めっちゃ緊張した」そうだが、女子には少ない両手投げのパワフルなボウリングでアマの部優勝を果たした森選手